

12 生涯を通じた健康づくり			
主管課名	福祉健康部 健康推進課		
主管課長名	川手 智子	電話番号	042-441-6100
関係課名 （組織順）	スポーツ振興課，子ども政策課，保育課，子ども家庭課，生活福祉課，高齢福祉担当，介護保険担当，障害福祉課，子ども発達センター，保険年金課，学務課，指導室，社会教育課		
目的	対象	市民	
	意図	生涯にわたり健康な生活をおくることができる，身近な地域で安心して医療を受けられる	
施策の方向	市民が主体的に取り組む地域健康づくりや疾病予防を推進するとともに，疾病の早期発見・早期治療体制を充実します。また，医療保険制度改革に適切に対応して保健行政の推進を図ります。		

<施策と関連するSDGsの目標（ゴール）>



1 令和元年度の振り返り — 取組実績（DO）

施策の成果向上に向けた主な取組実績	
施策における2つのアクション（①横断的連携による施策の推進 ②調布のまちの魅力発信）	
<p>（12-1 からだとこころの健康づくりの推進）</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民が自主的に行っている「調布市民健康づくり始める会」や，市民が利用している「健康活動ひろば」での活動を支援 令和元年7月施行の調布市受動喫煙防止条例についての周知・啓発や受動喫煙ゼロの店登録事業を実施 自殺対策の一層の推進のため，自殺の危機的要因の解消や複雑化の防止に向け，地域のネットワークを構築 <p>①横断的連携による施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 庁内連絡会を通じて健康づくり，食育，自殺対策を推進 「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」に向け庁内検討 ■連携テーマ3「2019年・2020年を契機としたレガシーの創出」 庁内連絡会を通じて受動喫煙防止条例の周知・啓発の取組を推進 <p>②調布のまちの魅力発信</p> <ul style="list-style-type: none"> アフラック生命保険（株）と連携し，「がんを知る展」や小児がん患者支援活動を通じ，がん検診の大切さを周知 市内複数の企業と連携し，小学生参加の食育セミナーにおいて食に関する「こころ，からだ，わざ」の各分野を体験する機会を提供 医師会，歯科医師会，薬剤師会（3師会）と連携し，受動喫煙防止対策を推進 	
<p>（12-2 早期発見・早期治療・重症化予防の充実）</p> <ul style="list-style-type: none"> 国の指針に基づき，胃がん内視鏡検診を導入しがんの早期発見を図った。 ゆりかご調布事業について，母子健康手帳の受付を集約（子育て包括支援センター）することで，妊娠早期から相談支援を行うとともに，より多くの妊婦の方へ情報提供及び相談を実施 風しんの抗体価が低い年代の男性に対してクーポン券を送付し，抗体検査や予防接種を受ける機会を提供 <p>①横断的連携による施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 食物アレルギーなどのアレルギー対応について，関係部署と広く連携し市の対策を検討 新型コロナウイルス感染症について，対策本部を設置し全庁的な対策を実施 <p>②調布のまちの魅力発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 3師会と連携し，災害発生時に設置される緊急医療救護所にて医療救護所訓練を実施 都立病院と連携し，アレルギー事業での医師相談を実施 	
<p>（12-3 国民健康保険事業等の実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2期調布市国民健康保険データヘルス計画（計画期間：平成30年度～令和5年度）を推進し，各保健事業の実施により，加入者の健康増進を図った。 平成30年度から実施された国民健康保険新制度を適切に運営するとともに，引き続き，医療費の適正化や国民健康保険税の収納率の向上に取り組んだ。 	
<p><令和元年度における施策の成果についての総括></p> <ul style="list-style-type: none"> 胃がん内視鏡検査を導入し1,191人が受診。検診の選択肢が拡大し，利便性の向上につながった。 調布市受動喫煙防止条例の施行により，受動喫煙防止の取組が進んだ。 風しん第5期予防接種対象者にクーポン券を送付。455人が接種し，風しんの発症防止につながった。 特定健康診査については，引き続き，受診勧奨に努め，受診率が53.8%（前年度比0.3ポイント向上）となった。 	

まちづくり指標 【☆：基本計画におけるまちづくり指標，◎：総合戦略における指標】		基準値 (基準年度)	単位	実績値 令和元年度	目標値 令和4年度
1	健康だと感じている市民の割合【☆】	74.1 (H30)	%	74.2	80.0
2	定期的にがん検診を受けている人の割合【☆】	58.0 (H30)	%	49.2	60.0
3	特定健康診査の受診率【☆】	54.0 (H29)	%	53.8	59.5
【備考】					

2 令和元年度の振り返り — 評価 (CHECK)

総合評価	A	S：「顕著な取組成果が得られた。計画以上に目標を達成した。」 A：「予定した取組成果が得られた。計画どおりに目標を達成した。」 B：「一定程度の取組成果が得られた。概ね計画どおりに目標を達成した。」 C：「予定した取組成果が得られなかった。目標達成にはやや至らなかった。」 D：「取組成果が得られなかった。目標達成までには至らなかった。」
理由	<ul style="list-style-type: none"> 指標1の健康だと感じている市民の割合と、指標3の特定健康診査の受診率が前年度より向上傾向にあるため。 指標2の定期的にがん検診を受けている人の割合は、基準値より8.8ポイント低下しているが、国のがん検診の目標とする受診率の50%に近い水準を維持しているため。 	

3 施策の方向 — (ACTION)

区分	今後の取組の方向 ★：重点プロジェクトに関連する取組，●：新規の取組，○：拡充の検討を要する取組
令和2年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ★産後ケア事業の実施（デイサービス型に加え宿泊型を実施） ●ロタウイルスワクチン定期予防接種の実施（令和2年10月開始） ○がん検診の拡充（胃内視鏡検査の対象者の拡大） ○受動喫煙防止対策における普及啓発（チラシ，ポスター，案内板等の作成） ・アレルギーエドケーターによる先駆的な事業の実施（食物アレルギー教室） ・第2期調布市国民健康保険データヘルス計画中間評価
新型コロナウイルス感染症の影響に伴う対応	<ul style="list-style-type: none"> ・国民健康保険における税の特例減免及び傷病手当金の支給 ・新型コロナウイルス感染症の医療提供体制の確保に向けた医療機関への支援（PCRセンターの開設，発熱外来を実施する医療機関への支援等） ・感染症対策としての妊婦等支援（妊婦向けマスクの配布，追加育児パッケージの配布等）
東京2020大会開催延期に伴う対応	
台風への対応を踏まえた災害対応	<ul style="list-style-type: none"> ・保健所と消毒等の保健衛生の確保について検討 ・医師会と避難所の健康管理体制について検討
令和3年度以降の計画期間内の取組 (令和2年度から継続する取組を除く)	<ul style="list-style-type: none"> ★受動喫煙防止条例に規定する過料の開始に伴う幅広い周知 ●母子保健法改正による産後ケア事業の拡大（対象要件の緩和や対象年齢の1歳までの拡大等） ●「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」に係るフレイル予防事業やデータ分析等の実施 ○第2期調布市国民健康保険データヘルス計画の後期に向けた新たな保健事業の検討・選定

1 2 生涯を通した健康づくり

No.	事務事業名	重点プロジェクト事業	総合戦略	所管部署	事務事業の概要
1	がん検診の充実			健康推進課	<p>健康増進法第19条の2に基づく健康増進事業として、がんの予防及び早期発見を目的としたがん検診を実施する。市では目的を達成するため年齢に応じて下記の検診を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胃がん検診（年齢に応じて、保健センター（集団検診）及び医療機関（個別検診）にて実施） ・大腸がん検診 ・乳がん検診 ・子宮頸がん検診 ・肺がん検診 ・前立腺がん検診（PSA検査） ・胃がんリスク検査
2	国保ヘルスアップ事業の推進			保険年金課	<p>医科・調剤等レセプトデータ及び特定健診等データの分析結果に基づき、平成29年度に策定した「第2期調布市国民健康保険データヘルス計画」に沿って、国民健康保険被保険者の健康の保持・増進、生活の質の向上及び医療費適正化に向け、健康課題に則した保健事業を選定し取り組む。</p> <p>関係部署と連携しながら健康づくりの意識向上に向けた啓発活動に取り組む。</p> <p>調布市医師会・調布市歯科医師会・調布市薬剤師会等と連携しながら各種保険事業を実施するとともに重複受診・重複服薬指導事業等の新規事業を検討・選定し実施する。</p>

12 生涯を通じた健康づくり

※各事務事業の概要については、巻末の「⑦事務事業概要一覧」をご参照ください。

No.	事務事業名	重点プロジェクト事業	総合戦略	所管部署	R1 決算事業費(千円)	令和元年度の実績	実績評価	進捗状況・今後の取組の方向性									
								R1 取組実績			方向性						今後の取組内容 (新型コロナウイルス感染症の影響に関する内容は冒頭に◆印を記載しています)
								計画前倒し	計画どおり	計画遅れ	有効性改善	効率性改善	財政面改善	参加と協働改善	改善余地なし		
1	がん検診の充実			健康推進課	413,008	国が推進するがん検診推進事業に基づき、子宮頸がん検診と乳がん検診の対象者に無料クーポン券を送付し、受診喚起に努めた。健康増進法に基づくがん検診(胃・大腸・子宮・乳・肺)と前立腺がん検診(PSA検査)を実施した。また、40歳から49歳までを対象に胃がんリスク検査を実施した。申込み制検診(胃がん・大腸がん・子宮頸がん・前立腺がん・肺がん)の申込みは、はがきだけでなく、インターネット(電子申請)での申込みを可能としており、令和元年度においては電子申請の申込み者数が前年度から更に増加し、新規受診者の受診の拡大を図ることができた。胃がん検診のあり方検討会を開催し、医師会と令和元年度からの胃内視鏡検査の対象者拡大に向けた検討を進めた。	○		●		●	●					個別通知対象のがん検診は、無料で受診できるが、受診率は高いもので30%程度である。一方、申込制胃がん検診については、バリウム検査の受診率が減少した一方で、内視鏡検査の受診率は申込み者の約75%となり、関心の高さがうかがえた。がん検診への意識が低い層にも、より効果的な受診勧奨を行うことが重要である。そのため、令和2年度以降においても、健康ガイド、市報、チラシ等の媒体をはじめ、各健康教育事業でがん検診について普及啓発を行い、受診喚起に努めていく。胃がん検診の内視鏡検査導入後の動向を把握しながら、今後の胃がん検診の方向性をはじめ、受診希望者の選択肢拡充・効果的な検診の実施について医師会と検討する。 ◆新型コロナウイルスの感染拡大の影響を考慮し、緊急事態宣言期間中は(検)診を休止していたため、受診期間を延長して受診機会の確保を図る。
2	国保ヘルスアップ事業の推進			保険年金課	13,690	糖尿病重症化予防事業の利用実績は8人であった。事業利用者の検査データに大きな変化は見られないものの、生活習慣の改善に取り組み始め、健康状態への満足感が向上した方が増えた。また、前年度利用者17人に1年後の支援を行い、その経過を確認したところ人工透析移行者は出ていなかった。また、糖尿病の合併症の一つである歯周病についての啓発を行った。受療勧奨事業は、前期553人、後期273人に文書と電話で医療機関への受診を勧奨を行い、前期は46人が医療受診につながった。薬剤併用禁忌予防啓発では、医師会及び薬剤師会と連携し、歯科を含めた市内医療機関等でお薬手帳活用の啓発を行ったところ、前年度と同一の薬剤併用禁忌の組み合わせは1組だった。特定健診受診券に調布市受動喫煙防止条例についてのリーフレットを同封し、周知・啓発を行った。	○		●		●	●				レセプト及び健診等データの医療費分析を基に第2期調布市国民健康保険データヘルス計画の中間評価を行い、後期での実施に向けた新たな保健事業の検討及び選定をしていく。各種保健事業の実施に当たっては、調布市医師会・調布市歯科医師会・調布市薬剤師会等の関係機関及び庁内関係部署と連携を図りながら実施する。糖尿病重症化予防事業は早期医療期向けのグループ支援の検討を行う。受療勧奨事業、薬剤併用禁忌予防啓発の充実を図るとともに、PDCAサイクルに沿って取組を推進していく。広く市民へ働きかけるポピュレーションアプローチ・地域包括ケアについては、保険者努力支援制度や高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施の方向性を踏まえながら、関係部署と協議・連携しながら進めていく。	
								0	2	0	2	2	0	0	0	計	
								0.0	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	割合(%)	

当該施策に体系付けられている全ての事務事業については、巻末に掲載している参考資料「⑥事務事業一覧(施策体系順)」をご参照ください。